



## 長期留学（認定留学）体験談

### 2019年度 オレゴン州立大学（アメリカ）

A.N. (国際交流学科 2019(R元)年度)

留学をしようと思ったきっかけは日本だけでなく、世界にも展開する会社で働くことに興味があり、将来グローバルに活躍するためには、英語を共通言語としたコミュニケーションを学ぶことが必要不可欠であると思ったからです。オレゴン州立大学という大きな州立大学で様々な人種や価値観を持った人達と一緒に半年間生活することで、固定観念にとらわれた小さな世界に縛られず、発想や考え方への柔軟性や、グローバルな視点を持って世界を俯瞰する力を身につけたいと思ったからです。

留学先で最も力を入れた授業は、“Global Leadership”でした。この授業では、多種多様な人種、考え方があってどうやってうまくコミュニケーションを取り、リーダーシップを発揮するか考え、実際にクラス内でチームに分かれて様々なシチュエーションを想定しながらコミュニケーション、リーダーシップをとる練習をしました。最初は、日本人だということで相手にされなかったり、ディスカッションについていけなかったり等大変悔しい思いをしました。しかし、最初に掲げた目標を達成しようと、毎日この授業の為に、予習・復習、先生に相談しに行くなど必死に努力し、最終的にはクラスの前で堂々と発言ができるようになりました。授業最終日には、クラスで1番活躍したと思う生徒に手紙を渡すという企画がありました。私はここで、1番多くの手紙を受け取ることができました。この時、最初に掲げた目標を達成できたのと同時に、日本人の私もアメリカ社会の中で認められたと感じ、大きな自信になりました。

### 2019年度 キャロル大学（アメリカ）

Y.M. (国際交流学科 2019(R元)年度)

私がアメリカで学んでいた Carroll College は素晴らしい大学で、現地の方々も心優しい方ばかりでした。カトリックを信仰している人が多く、常にお互いを尊敬し合い、自分の事以上に周りの人に気配りができて、人間性の面ですごく勉強になることが沢山ありました。

その一方でやはり一番苦労したのは勉強面です。初めは先生の言っていることが理解できずグループディスカッションでも全くついていくことができず悩んでばかりでしたが、毎日NHK Worldを聴きながらメモを取る練習をしているうちに、留学開始の2ヶ月目頃から急にはっきりと聞き取れ、理解できるようになったのが実感でき自分でも驚きました。宿題の量は想像以上に多く、勉強づけの毎日、現地のアメリカ人の学生もほとんど遊ぶ事なく週末も常に勉強しているのが日常で、ただ学位を取得するためのために大学で勉強しているのではなく、もうすでに将来の計画が決まっており、自分が本当に勉強したい分野を徹底的に学ぶといった感じでアメリカの学生の意識の高さに衝撃を受けました。その他の課外活動では、ボランティアで動物の保健所に行き、おもちゃやペットフードを寄付したり、低所得者の住居作りのお手伝いをしたりしました。ボランティアは初めての経験だったため、人の為に働けることの喜びが実感でき貴重な経験になりました。

## 2019～2020 年度 セイクレッド・ハート大学 (アメリカ)

M.T. (英語英文学科 2019～2020(R元～2)年度留学)

自分のやりたいことを見つける一年にしよう。強い決意とともに日本を離れアメリカのNYから一時間ほど離れたコネチカット州にある大学に一年学部留学をしました。留学は高校生からの目標であり、ようやく憧れの地アメリカで自分の好きなことを学べるという期待だけに初めは映画のような華やかな世界を想像していました。ですが、現実の世界はそんな甘くなく毎日英語のシャワーを浴び、留学生との交流は0、ルームメイトやその友達は毎日パーティーに行くような子でした。自分の想像していた世界と180度異なるゆえに、はじめはいかに静かに息を潜めて生活するかそんなことばかり考えていました。そんな姿は惨めで、本当の自分を出せないことが私にとって一番辛いことだったのです。

そんな私を大きく変えてくれたのは、マーチングバンドでした。大好きなマリimbaをアメリカの地で披露できる。こんなチャンス二度ないと思いました。そんな気持ちで入った、マーチングバンド。ここで出会った仲間は私のアメリカ生活でかけがえのない存在であり、私を一番受け入れてくれるホームのような場所でした。そこにはたくさんのバックグラウンドを持った仲間たちがいて、一人一人が互いに必要とし合っていました。そんな彼らと関係を築いていけること、そして自分がアメリカの地でマーチングバンドという、想像をはるかに超える道に挑戦している姿に向き合い始めていることに気づき、次第に自信を持つようになりました。

また、勉強の毎日の中でも続けられたのは自分のすべきことを見つけることができたからです。自分の人生の目標がはっきりしているアメリカ人と生活している中でたくさんの刺激を受けました。お給料や社会的立ち位置に目もくれず、ただただ自分の好きなことにまっすぐに生きる彼らを見て、細かいことを考えるよりも自分の気持ちに正直に従うことが一番の幸せである、また自分のやりたい道に進むという選択肢を与えられている恵まれた環境に身を置かせてもらっていることに自分自身も感謝しなければならないと感じました。チャンスは自分で生んでいくものですがその前に誰かの助けがあって初めてこのチャンスをつかむことができるのです。自分に与えられた豊かな恵みを一ミリも無駄にすることなく人生を歩んで行きたい、また夢を語るだけの人間ではなく実現に向けて地道に努力できる人間でありたいと強く思わせてくれた留学でした。

